

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/10 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★特集 平成 32 年度から共通テストを実施！！

7 月 1 3 日、数年にわたって検討されてきた「大学入学共通テスト実施方針」が策定、公表されました。今回はこの実施方針を皆さんに述べていきたいと思います。1 年生の皆さんは特にしっかりと読んでください。なぜならば、現役で合格し、入学しなければこの新しいテストを受けることになるからです。毎年、本校では約 2 5 名前後がもう 1 年頑張りたいと浪人します。1 クラス平均すると 4 人です。また、2 年生も 2 浪する生徒がいるかもしれません。知らなかった、ではすまされないということを理解して下さい。

○今まで「仮称」とされてきた名称が「大学入学共通テスト」に確定。略称は「共通テスト」

大学入試センター試験（センター試験）は平成 3 2 年度の実施（現在の高校 1 年生が受験）をもって廃止されます。私自身が大学受験したのが「センター試験」の元年でした。約二十数年にわたった試験が廃止されることになります。

「センター試験」の主たる目的

基礎的な学習の達成の程度を判定する ＝「知識・技能」をはかる



「共通テスト」の目的

「知識・技能」の評価を行いつつ「思考力・判断力・表現力」を中心に評価を行うが明らかにされました。共通テストは現在の中学 3 年生が現役で最初に受験することになります。

○共通テストの「国語」「数学Ⅰ」「数学ⅠA」で記述式問題を出題

- ・国語の記述式問題・・・現代文の分野で文字数 80 ～ 120 字程度の問題を含め 3 問程度
1 つの大問が記述式

試験時間は現行の 80 分から 100 分程度へ変更

今のところ 80 ～ 120 字、50 ～ 80 字、20 ～ 50 字がそれぞれ一問ずつ出題されると予想されています。

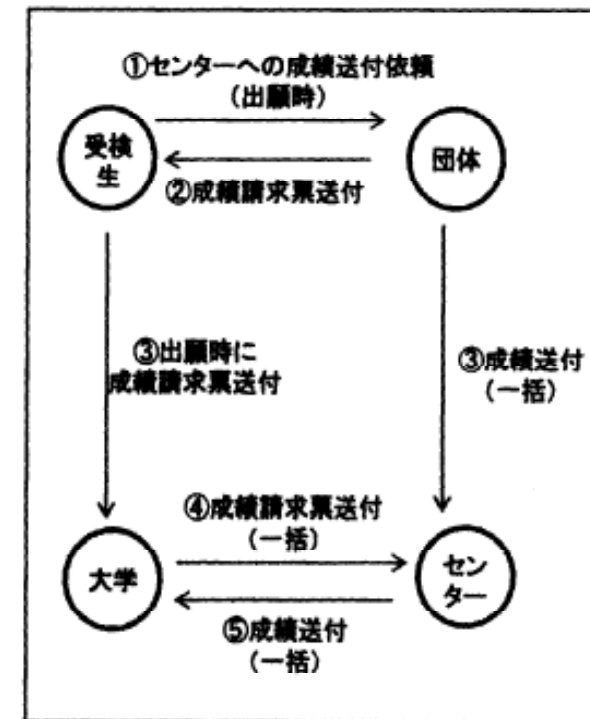
- ・数学の記述式問題・・・「数学Ⅰ」の内容で、問題数は 3 問程度、
大問の中にマークと記述を混在して出題
試験時間は現行の 60 分から 70 分程度へ変更

どちらも、記述問題の採点は大学入試センター（以下「センター」）において行われますが、多数の受験者の答案を短期間で正確に採点するために民間業者も採点に加わるようになります。また、採点の結果は 3 ～ 5 段階程度の複数段階で表示することを想定しています。尚、平成 36 年度のテストからは、地理歴史・公民や理科などでも記述式問題を導入する方向で検討が進められています。

○英語は民間の資格・検定試験を活用

4 技能（読む・聞く・話す・書く）を適切に評価するために、共通テストで英語試験を実施し、各大学の判断で、共通テストと認定試験のいずれか、又は双方を選択利用することになりました。受験生は共通テストと民間検定試験の両方を受けなければいけないことになります。尚、平成 36 年度からは民間検定試験のみとなります。

どの民間検定試験でも活用されるわけではありません。センターが入学選抜に適した検定試験を認定することになっています。高 3 の 4 ～ 1 2 月の間の 2 回までの検定結果を各大学に送付することになります。



民間の検定試験ですから、普通に考えると何回でもどの検定でも受けることが可能ですが、この「2 回まで」とはどういうことでしょうか？

左の図を見て下さい。①では団体（民間検定試験）を受験申請する時にその検定結果をセンターに通知するかどうかを伝えなければなりません。この通知する検定が 2 回までとなります。

例えば英検を 2 回受けて 2 回とも通知に同意する、英検と G T E C を 1 回ずつ受けて 2 つとも通知に同意する、たくさん受けてその中の 2 回だけ通知に同意する、さまざまなパターンの受け方があると思います。

○共通テストの実施期日

現行の日程とほぼ同じく、1 月中旬の 2 日間となります。また、成績提供時期については、現行の 1 月末から 2 月初旬頃の設定から、記述問題の採点のために 1 週間程度遅らせる方向で検討されています。ということは国公立大学の出願期限が若干遅くなる可能性があります。

○プレテストの実施

文部科学省は今年 11 月に高校 2 年生以上の生徒約 5 万人を対象に共通テストを試験的に行うプレテストを実施します。全国で 2000 校弱が選ばれ、道内は 70 校前後が対象になります。来年は全国で今年の倍の約 10 万人の生徒を対象にプレテストを行い、試験方法などを検証することになります。

プレテストの会場は今年は選ばれた高校にて行い、来年は共通テストの会場となる予定の全国の大学で実施する予定です。

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
「大学入学共通テスト」の導入			「実施方針」の策定・公表 (29年度)	プレテストの実施 (30年度日本)	「実施大綱」の策定・公表 (31年度初回日本)	「大学入学共通テスト」の実施	新学習指導要領に対応した 「実施大綱」の予告		新学習指導要領に対応した 「実施大綱」の策定・公表	新学習指導要領に対応した テストの実施
			プレテストの実施 (29年度)		確証プレテストの実施 (31年度日本)					
プレテスト等										
		フィージビリティ 検証事業	プレテスト	プレテスト	確証プレテスト					
	受験者数	約1千人	5万人規模	10万人規模	詳細について、 今後検討予定					
	対象者	大学1年生	原則、高校2年生以上 (一部、高校3年生以上を含む)	高校3年生						
	対象教科等	国語、数学	国語、数学、 地理・公民、 理科、英語、 特別の配慮等	国語、数学、 地理・公民、 理科、英語、 特別の配慮等						
	実施時期	11月、2～3月	11月 (一部、2月頃)	12月頃						

○マークシート式問題の見直し

- マーク式問題についてもより思考力・判断力・表現力を重視した問題となるよう見直しを図ります。具体的な見直しは以下の通り。
- 出題者が問題文で示した流れに沿って解答するだけでなく、問題解決のプロセスを自ら選択しながら解答する部分が含まれるようにする。
- 複数のテキストや資料を提示し、必要な情報を組み合わせ思考・判断させる。
- 分野の異なる複数の文章の深い内容を比較検討させる。
- 学んだ内容を日常生活と結びつけて考えさせる。
- 他の教科・科目や社会との関わりを意識した内容を取り入れる。
- 正解が一つに限られない問題とする。
- 選択式でありながら複数の段階にわたる判断を要する問題とする。
- 正解を選択肢の中から選ばせるのではなく必要な数値や記号等をマークさせる。

○モデル問題の公表

上記の表にあるフィージビリティ検証事業で出題された問題が公表されました。記述式問題の導入に加え、マーク式問題も思考力を重視した内容となっています。平均正答率は国語が 56. 1 %、数字が 49. 8 %でした。正答数を特定しないで該当する選択肢を全て選ばせる新しい出題形式では、正答率は 2. 5 %と著しく低い結果となっています。

今回はここまでとします。かなり中身の濃い内容ですので、時間をかけて理解してほしいと思います。尚、国語・数ⅠAのモデル問題については後日、この紙面にて各教科の先生方が分析したものを掲載する予定です。自分で解くことができるのでしょうか。楽しみにして下さい。ネットには既に載っています。あらかじめ解いておくとさらにいいですね。

★特集 センター対策「数ⅠA」

前回の駿台予備学校主催のセンター対策説明会の続きです。今回は高橋洋輔先生の数ⅠAです。数ⅡBは次回に持ち越します。

＜全体＞

第1問で、教科書の発展的な内容である3次式の因数分解が出題された。

選択問題はやや難化しているが、必答問題が易しくなったので全体としては易化した。

＊選択問題に関して

昨年、一昨年は図形が難しかったが、今年は整数の平均点が一番低かった。

昨年、一昨年の図形問題は図形を何度か書き直さないと解けない、解きづらいので難しかったが、今年は図形を書き直さなくても解ける問題だった。

かなり実力のある受験生の中には、試験場で問題を見てから選択を決めるというスタイルをとっている生徒もいるようだが、ほとんどの受験生はあらかじめ選択する問題を決めていると思う。

(注意：どの問題が難しいかは年によって変わります)

＜大問構成＞

第1問 (30点) (必答・数学Ⅰ) 数と式、集合と命題、2次関数

第2問 (30点) (必答・数学Ⅰ) 図形と計量、データの分析

第3問 (20点) (選択・数学A) 場合の数と確率

第4問 (20点) (選択・数学A) 整数の性質

第5問 (20点) (選択・数学A) 図形の性質

＜来年のセンター試験攻略のポイント＞

・各分野の基本問題を中心として出題される傾向は昨年と変わらないため、教科書レベルの基本事項をもれなく理解し、典型的な問題を中心に演習を積むことが重要である。

・「論理と集合」の問題では、用語や論理記号を確実に理解していないと得点できないため、普段から十分な学習を積んでおきたい。「かつ」と「または」を正しく理解し、普段の学習から「かつ」と「または」を用いて表現する練習が大切である。また、ベン図や数直線などを用いて集合の包含関係を考える問題は毎年のように出題されている。

・図形問題について、来年以降も引き続き数学Ⅰの「図形と計量」と数学Aの「図形の性質」は異なる大問で問われると予想される。ただし、互いの知識を用いると問題に取り組みやすくなる場合もあるため、数学Ⅰの内容、数学Aの内容と分けて考えるのではなく、図形問題を総合的にとらえる練習をしておくとよい。また、高校の教科書には載っていない中学の基本的な図形の性質も意識しながら取り組むことも必要である。

・「データの分析」では、昨年に引き続き変量の変換に関する問題が出題された。計算が必要な問題は非常に少なく、全体として用語や公式をきちんと理解しているかどうかが問われている。今後もこの傾向は続くと思われるので、まずは用語や公式を正確に用いることができるようになった上で、グラフからデータの傾向を読み取る力などもつけておきたい。

・「整数の性質」の問題では、1次不定方程式の解法はもちろん、n進法も含めて、教科書に載っている項目の基本事項はもれなく理解しておきたい。

・大問構成が大きく変化したり、これまで解いたことがないような出題になったとしても、与えられた誘導の意図を考えながら正確な立式や計算ができるように、日頃から演習を積んでおきたい。